

一流の人から学ぶ

先日、福岡ソフトバンクホークス 元監督 工藤公康さんの講演を聴講しました。テーマは、組織を動かす信念と覚悟
～未来を見る・創る・拓くために～ でした。

現役時代は14度のリーグ優勝、11度の日本一(日本シリーズ優勝)を経験。西武、ダイエー、巨人の3球団で日本シリーズを制覇し、優勝請負人と呼ばれました。日本シリーズ通算最多奪三振(102奪三振)記録を保持。2015年から福岡ソフトバンクホークスの監督(第21代)として指揮を執り、3度のリーグ優勝、5度の日本一に導かれました。

講演のなかで心にのこった言葉を紹介します。

①チームとしてどうあるべきか

- ・球団のなかでの監督は、一般企業の「部長」の立ち位置と考え、最初にしたのは組織図をみて誰の意見を聞き、誰に伝えなければいけないのかを確認した
- ・勝つために勝ち続けるためには組織とチームの連携が大事
- ・監督が方向性・目標・方針を決めて全員に伝えることが重要

②10連覇を目指す為に

- ・10連覇を目指して、そのためにどうすればよいか、勝ちながら選手を育成すること
- ・選手自身が自分のすべきことを考えて、見つけ、育っていく環境を作る
- ・選手は育てるのではなく、育つように環境を整える
- ・選手が育つために、選手の性格や背景を知りコミュニケーションの準備をする、時には時間をかけ選手一人一人の未来を見据えて対話する
- ・チャンスをあげると、自分で考え練習し課題を解決していく

- ・なかには育ててやらないといけない選手もいる
- ・オフの時にトレーニングしないと、翌年ケガをすることを認識させる
- ・シーズン終了後、一軍選手一人一人にオフシーズンの課題をA4用紙1枚にそれぞれ書いて渡していた
- ・二軍選手の状況・様子は二軍監督・コーチから聞き、監督自身がA4用紙1枚にそれぞれ書いて二軍選手に渡していた。こうすることで、選手は監督が自分のことを気にかけてくれていると感じてくれたと思う
- ・一軍二軍合わせて92人に課題を書いて渡していた。渡した内容は、彼らのタイミングに合わせてやってくれれば良い
- ・「どうにかなる」は「どうにもならない」
- ・「何となく」では「何も生まれない」
- ・徹底した準備が未来を創る
- ・微差が大差を生む
- ・凡事徹底、継続することが大切



野球選手で現役引退後にプロ野球に関われるのは1~2割で、それ以外の方は違う世界で生きていかなければいけない。プロ野球界に残るには、一年でも長く現役を続け、実績を積み重ねること。V9(プロ野球日本シリーズ9年連続制覇)を達成した巨人軍選手は、以後に監督・コーチを務めている。強いチームの選手はあちこちから呼ばれる。だからこそ、勝たなければいけない。

監督の言葉の一部を紹介しましたが、プロ野球の世界も、企業の組織も全く変わらないのだと感じ、監督のお話からたくさんのお話を学ばせていただきました。

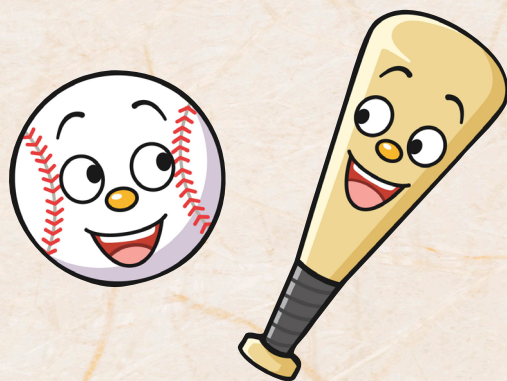
このような輝かしい実績を残された監督はどのような方なのだろうと興味をもち、その生い立ちや、子供時代から高校野球時代、プロ野球選手時代を調べてみましたが、決して順風満帆ではなく、山あり、谷ありの野球人生でした。その中で様々な経験、人や監督から学ぶこともたくさんあったようです。

また監督在任中に筑波大学大学院で(人間総合科学研究科体育学専攻・体育学修士取得)、トレーニングの方法や身体の事、栄養の事などを学んだり、オフにはアメリカのトレーニング施設の視察に行くなどしておられました。

工藤監督はいつもスケッチブックを持っておられたそうで、練習のときに選手の動きを見て、話をしたときの表情やコンディションを感じ取って、試合前のあらゆる情報を頭の中に入れておくためにスケッチブックに書き留めて、自分の中でまとめておく。そうすると試合中も冷静に状況判断もできるし、戦略も組み立てやすくなる。

このスケッチブックには、選手たちに伝える言葉もたくさん書いてあったようです。

工藤監督が繰り返し言われたのは「選手に一年でも長く野球をしてほしい」そのために何ができるかを、いつも考えていたと。



企業においても人材は重要な経営資源で、いい人材に長く勤めてほしいと思っておられると思いますが、上司の皆様は人材が育つように環境を整え、よく観察し、いかに導いていくかをどのくらい真剣に考えておられるでしょうか。



垣内イスズ